

平成 21 年度地盤工学会四国支部技術研究発表会(高知)

1. まえがき

四国支部で第 1 回目の技術研究発表会が開催されたのは、平成 3 年 11 月であった。平成 4 年に高知で第 27 回土質工学会研究発表会が開催されるので研究発表のリハーサルをしようということで、愛媛大学の八木研究室の提案により松山で開催された。1 回限りの予定であったが、その後も各県が持ち回りで毎年開催されているのである。

今年は第 19 回目で、高知県地盤工学会研究会が担当であった。これまでは高知市内のホテルで開催していたのであるが、高知市から車で約 1 時間の距離にある中土佐町久礼で開催することにした。

昨年、矢田部先生の提案で、今治市大島の村上水軍博物館で研究発表会を行い、懇親会は海宿・千年松に泊まり込んで行った。会員同士の絆を高めようという趣旨であったが、とても好評であった。高知では須崎市安和海岸の落石防護施設群を見てもらい、鯉のたたきを味わってもらおうと考えていたのである。

7 月 3 日に現地に行き、研究発表の会場と懇親会の会場を予約してきた。懇親会の会場は人気が高い「黒潮本陣」に決め全館抑えたものの、この不景気の時代に中土佐町までどれだけの人が来てくれるだろうかと直前まで心配であった。



研究発表会の日程

月日	時間	内容	会場
11/19 (木)	10:15 ~ 17:25	研究発表	人権啓発センター 大ホール
	19:00 ~ 21:00	懇親会	黒潮本陣
11/20 (金)	9:00 ~ 12:00	研究発表	人権啓発センター 大ホール
	13:00 ~ 16:00	見学会	安和海岸の落石防護施設群

位置図



2. 研究発表会



研究発表に先立ち、中土佐町水産商工課の辻本加生里様より中土佐町の観光案内があった。



研究発表された論文数は、例年よりも多い55編で、参加者は95名であった。



研究発表の持ち時間は、質疑応答の3分を含めて一人9分と少なかったが、発表者の説明に聴講者は熱心に耳を傾けた。



ニュービジネスに発展するような研究発表も多く、質疑応答が活発に行われた。財政が危機的状況にあり、公共事業が削減される中で、競争力を付けるには新しい技術を開発する以外にない。ビジネスチャンスを期待して集まった聴講者も少なくないと感じた。



20日の朝には、中土佐町の池田洋光町長がわざわざ歓迎の挨拶に会場に来られた。

3. 懇親会

懇親会の会場は黒潮本陣。土佐湾を見下ろす高台の最高のロケーションにある。土佐湾に浮かぶ二名島を眺めながら温泉に浸かったあと、19時より懇親会。会場が満席になる70名が参加。



歓迎の挨拶をされる高知高専の岡林宏二郎先生



愛媛大学副学長の矢田部龍一先生による乾杯の音頭



参加者が多すぎて全員がファイnderに収まりきらないため二組に分かれて集合写真。



矢田部先生の発声で乾杯



久しぶりの友人と再会して話が弾む



黒潮本陣名物「鯉のたたきの実演」。これには参加者全員が大満足。



愛媛大学の先生方は一休み。



「土佐のお客(宴会)」は最高。内田さん、蔣先生も盛り上がりました。



遠路金沢から来られた高森さん、高橋さんは四国の会員の皆さんと積極的に親睦を深めました。

4. 見学会

20日の午後は、県道320号久礼須崎線の須崎市田ノ浦から青木岬までの約3.5kmを歩きながら、落石防護施設群を見学。ここは安和海岸と呼ばれ、昭和38年の「高知国道56号落石事件」の舞台になった場所。

高知国道56号落石事件とはわが国で最初に最高裁が道路管理者の瑕疵責任の判決を言い渡した事件。ポケット式と呼ばれる落石防護ネットが、当時の高知県の土木技師・田中忠夫氏によって考案され、最初に施工された場所でもあり、わが国における「落石対策のメッカ」と呼ぶにふさわしい所である。

青木岬の近くに広域ごみ処理施設があり、近隣の市町村からここにゴミを運搬している。このため重要路線に位置づけられ、たくさんの落石防護施設が造られており、ありとあらゆる種類の落石防護工を一同に見学することができる。落石防護施設群の中には、高知県内の企業と地盤工学会四国支部と愛媛大学が連携し、2年間かけて研究開発した落石防護ネットも含まれている。

参加者は、当初は89名の申し込みがあったが、実際に参加したのは64名であった。

見学に際しては、県道320号久礼須崎線を管理している高知県須崎土木事務所から協力を頂いた。



見学会に先立ち、須崎土木事務所の上野孝穂所長より歓迎の挨拶があり、落石防護施設群の説明があった。



第一コンサルタントの中村和弘氏による地質の説明



岩礁が美しい安和海岸



日本サミコンの井上裕之氏による構造物の説明



美しい土佐湾をバックに全員で集合写真。カメラマンはロイヤルコンサルタントの筒井秀樹社長



片持ち式ロックキーパー。サンドクッションを敷いたプレキャストコンクリート製の柵をグラウンドアンカーで地山に固定している。



約3.5kmの区間を歩きながら落石防護工を見学



高知県内の企業、地盤工学会四国支部、愛媛大学防災情報研究センターの共同で開発したポケット式落石防護ネット。横ロープに緩衝金具を装着しているのので、エネルギー吸収性能、耐衝撃性能に優れている。



土佐湾のパノラマは最高に美しい。



見学会の終了後、大正町市場によってお土産用の刺身や干物を買う。安くておいしいと評判が高い。

5. あとがき

今年は地盤工学会四国支部創立 50 周年の節目の年に当たることから、9月25日に高松市で記念式典があった。参加者は約80名と少なく、10年前に開催された40周年記念式典の1/3であった。公共事業費の落ち込みと同じである。会員数も毎年減少しており、将来の運営が危惧されている。

こうした中で、今回の研究発表会 95 名、懇親会 70 名、見学会 89 名(参加者は 64 名)には、企画者の一人として、大変有り難く思っている。

高知県須崎土木事務所、中土佐町、そして研究発表会に参加された皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

(文責：技術研究発表会担当 右城猛)